

学部

法学部

学科	
法律学科	(茗荷谷キャンパス)
国際企業関係法学科	
政治学科	

法学および政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力および問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成します。

法学部は、「英吉利法律学校」の創立以来140年以上の歴史と伝統を持つ学部です。これまで法曹界をはじめ政・官・実業界などに優れた人材を輩出し、伝統を継承する一方で、社会の変化と大学教育に対する要請に応えるため、教育の内容・方法などの改革に絶えず取り組んできました。法律学科・政治学科においてはコース制を導入し、2年進級時にコースを選択できます。また、国際企業関係法学科は激変する国際化社会に対応可能な地球規模のリーガルマインドを養える学修体制となっております。

330講座以上の演習科目(ゼミ)、各界で活躍する実務家の授業、国際化に対応したきめ細かいカリキュラムを通し、法科大学院をはじめ、どのような進路に進む場合にも必要とされる能力の涵養を図っています。また、「やる気応援奨学金」や茗荷谷スチューデントハブなど法学部独自のシステムで、学生の自主性を育てます。

茗荷谷キャンパスでは、都心3キャンパス(後樂園・市ヶ谷田町・駿河台)に近接した立地であることを活かし、法曹一貫教育をさらに強化し、実務家を招いた実践教育を実現しています。また、基幹・社会・先進理工学部、国際情報学部との共同開講科目である「学問最前線」「学際最前線」を設置し、文理融合教育を展開しています。

経済学部

学科 ※2027年4月～ 経済学科、社会経済学科(仮称・認可申請中)	
経済学科	(多摩キャンパス)
経済情報システム学科	
国際経済学科	
公共・環境経済学科	

経済や経営についての専門的知識を備え、社会の多様なニーズに応えられる、冷静な思考力と温かい心を持った国際的な視野に立つ経済人を育成します。

経済学部では、経済学の専門知識と社会人基礎力を養うため、従来から実践教育を重視しています。そのコアとなるのが「ゼミナール」「キャリア教育」「グローバル人材育成」の3つの柱です。

■ゼミナール

少人数教育に力を入れており、2年次から専門テーマを深く探究します。日頃の研究成果を競い合う「経済学部プレゼンテーション大会」をはじめ、学生が自主性を発揮して成長できる環境を整えています。

■キャリア教育

1年次の「ビジネス・プロジェクト講座」をはじめ、2年次の「海外インターンシップ演習・実習」、3年次の「インターンシップ」など、豊富な実践科目を設置しています。

■グローバル人材育成

「グローバル・リーダーズ・プログラム」を開設。本学の卒業生で組織する海外の白門会支部と連携したインターンシップなど、地球規模で活躍できる人材養成に取り組んでいます。

これまでの取り組みを一層強化し、現代の複雑化する社会課題に対応しうる人材を育成するため、2027年4月より、現在の4学科を「経済学科」「社会経済学科」の2学科4コースへと再編を予定しています(仮称・認可申請中)。経済学の体系に基づく新たな系統的カリキュラムにより、これまで以上に高度な専門知識を備えた人材育成を目指します。

商学部

学科	
経営学科	(多摩キャンパス)
会計学科	
国際マーケティング学科	
金融学科	

商学にかかる各専門分野およびその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成します。

■産学連携講座の設置

幅広い企業や団体からの協力を得て、各界の最前線で実務に携わるビジネスエキスパートから直接指導を受けられる産学連携講座を設置。多様な講義で学生のキャリアデザインを支えています。また、1年次から将来設計を探索するためのキャリア科目「ビジネス・プロジェクト講座」を開講し、連携する企業から提示された課題に対して、学生同士のグループワークを通じて、解決策を導きます。

■プログラム科目

海外企業での就業体験、地域の課題解決を目標とした商品・サービス開発に挑戦できるPBL科目(課題解決型学習)を多数新設しています。さらに、公認会計士などの職業会計人を目指すために必要な資格取得を目的とした講義の充実を図っています。

海外での就業体験プログラムについて、実習先としてタイ・ベトナム・マレーシア・オーストラリア・モンゴル・インドを設置し、商学部留学プログラムと併せて学生が海外へ渡る機会を積極的に提供しています。さらに、SDGsを実践するビジネス人材の育成を目的として、山梨県小菅村・丹波山村および東京都檜原村と交流・連携に関する協定を締結し、地域社会の持続的な発展に貢献できるよう域学連携を展開しています。

公認会計士試験では毎年多くの合格者を輩出し、トップクラスの実績を誇っています。2025年度は38名の商学部生(うち、18名現役生)が公認会計士試験に合格しました。

■ 基幹理工学部

学科	
数学科	(後楽園キャンパス)
物理学科	
応用化学科	
生命科学科	

理学並びに工学の分野に関する理論および諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学（物理学・化学・生物学）、および工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身に付け、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的財産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成します。

■最先端の自然科学が探求できる環境

ミクロな生命現象を観察できる超解像顕微鏡から、広大な宇宙に触れることができる天文台に至るまでの、最先端の研究設備を備えています。都心にあるため、第一線で活躍する研究者どうしの交流も活発です。数学などの基礎研究はもちろんのこと、例えば人々の命を救う人工血液の開発も行われ、本格的な科学者・技術者を目指すことができます。

■教職課程のカリキュラムが充実

中学校・高等学校の数学・理科の教員免許を取得するための教職課程のカリキュラムが充実しており、これまで多くの教員をさまざまな教育の現場に輩出しています。

■大学院進学と幅広い就職先

多くの学生が大学院に進学して専門的なスキルを身に付け、幅広い業界（製造、IT、金融、教育など）へ巣立っていきます。さらに、一部の学生は博士後期課程へ進学し、研究者として大学や多くの研究機関で活躍しています。女子学生の比率も高く、多様な学生が集うのもこの学部の特徴です。

■ 社会理工学部

学科	
都市環境学科	(後楽園キャンパス)
ビジネスデータサイエンス学科	
人間総合理工学科	

工学の分野に関する理論および諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成します。

■グローバル展開と学際化を見据えた教育

社会理工学部では、理工分野の目線から社会をデザインし課題を解決するという観点から、その入学初期よりグローバル展開と学際化を見据えた教育を実施しています。一例として、3学科の1年次共通科目である「社会理工学概論」では、TGGを利用した英語体験に加え、それらの体験を通じて学生の学科間の交流も行うことで、分野間の連携を見据えた教育を実施していきます。

■社会実装を見据えた研究活動

社会理工学部の3学科では、社会課題を解決するという共通のミッションを達成するために、社会実装を見据えた研究活動が数多く行われており、それに必要な最先端の実験施設を豊富に備えています。また、これらの社会実装には高い専門性が要求されることから、大学院進学を見据えた学部教育を実施していきます。

■専門分野への高い就職率

社会理工学部での研究・教育活動を通じて成長した学生は、それぞれの専門領域へ飛び立っていきます。3学科ではそれぞれの専門分野への高い就職率を誇っています。また、社会展開を考えた時には官の目線も必要不可欠であることから、例えば都市環境学科では公務員への公務員講座などを実施することで、数多くの合格者を輩出しています。

■ 先進理工学部

学科	
精密機械工学科	(後楽園キャンパス)
電気電子情報通信工学科	
情報工学科	

工学の分野に関する理論および諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸現象の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成します。

■伝統と最先端研究を併せ持つ高度研究教育集団

先進理工学部は、宇宙開発、クリーンエネルギー、AIロボット、情報通信、バイオ・医療、スマートマテリアルなど、近未来世界を創造するためのノウハウを多彩な研究室のもとで伝承する、本格的な高度研究教育集団です。これらの技術を活用あるいは発展させて、今とこれからの私たちの暮らしを支える各分野において新しい価値を創造していきます。

■チームで課題解決に取り組むプロジェクト型学習・実験・演習が充実

学生が中心となって課題解決にチームが協働して取り組み、その過程において能動的に知識を拡大しスキルを深化できるように、実践的なプロジェクト型学習その他の実験や演習を豊富に提供しています。

■充実したキャリア形成支援

先進理工学部のある後楽園キャンパスは、3駅5路線が使える好立地に位置します。時間を掛けて信頼関係を築いていく長期インターンシップやジョブマッチング方式の就職活動も、無理なく学業と両立できます。法曹界から経済産業界まで根を張る有名私立大学ならではの人脉を背景に、都内の卒業生リクレーターによる支援を受けつつ、大学生活を豊かなキャリア形成へと自然につなげられます。

文学部

学科・専攻（プログラム）

人文社会科学 (多摩キャンパス)	
国文学専攻	西洋史学専攻
英語文学文化専攻	哲学専攻
ドイツ語文学文化専攻	社会学専攻
フランス語文学文化専攻	社会情報学専攻
中国言語文化専攻	教育学専攻
日本史学専攻	心理学専攻
東洋史学専攻	学びのパスポートプログラム

人文科学、社会科学および自然科学の諸分野に関する教育と研究を行っています。専門的な教育によって得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成します。

文学部は「人間とは何か」を探究する学部です。専門的知識×幅広い教養＝「人や社会を読み解く力を備えた人材」「多様な社会に対応できる人材」の育成を目指します。

2021年4月より、既存の13専攻に加え「学びのパスポートプログラム」を新設し、1学科13専攻1プログラムという多岐にわたる学問分野を生かした構成となりました。全専攻で約700以上もの専門科目を設置し、学生は他専攻の専門科目も広く履修できます。また、各共同研究室には学生の研究相談を受ける室員を配置し、合計約34万冊の蔵書で学修をサポートしています。

学びのパスポートプログラムは、文学、文化、外国語、歴史学、哲学、社会学、教育学、心理学等、広範な領域を学ぶ文学部の利点を発展させ、自らの関心を深めていく新しい学びの領域です。このプログラムには、「社会文化系」と「スポーツ文化系」の2系統での学びが用意されています。入学手続時にどちらかの系統を選択して所属し、自らの関心に基づいたオリジナル・カリキュラムを作成し、学びをデザインしていきます。

総合政策学部

学科

政策科学科 (多摩キャンパス)
国際政策文化学科

人文科学、社会科学、自然科学、工学およびその他の関連諸分野から、現代社会における政策に関する理論および諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築し得る人材を育成します。

総合政策学部では、「政策」「文化」「外国語」「情報」を4つの柱とし、教養となる基礎知識を身に付けた後、学生の問題意識に応じた専門分野を深めるカリキュラムを提供しています。

「外国語」教育は英語を含めた10語種（マレー・インドネシア語、ヒンディー・ウルドゥー語、ペルシア語などを含む）を開講し、専門分野に関するテーマについて英語やその他の外国語で授業を行う「GATEプログラム」を設置。「情報」教育はICTを精緻に理解できるようカリキュラム設計されており、併せて、さまざまな分野にわたった魅力ある教授陣による「政策」と「文化」に関する専門教育を展開しています。

また、PBL (Project Based Learning) の拡充を志向し、学生の主体的に学ぶ意欲や活動、発表を全面的に支援しています。正規の授業科目である「外国語研修」ではドイツ、フランス、韓国、インドネシア等の現地語学学校での学びの機会を設けています。「Field Studies」では教員引率のもと海外調査を行います。さらに、学生主体で企画・運営を行う研究発表会「リサーチフェスタ」や、優れた研究プロジェクトを企画した学生へ給付する「プロジェクト奨学金」など、日々の学びをアウトプットし、教員・学友からフィードバックを得られる場もあります。

特色あるカリキュラムとゼミ教育、学外における学生の活動への支援により、国内外においてさまざまな視点から問題の発見・解決、社会現象の解明を行うことができる人材を輩出しています。

国際経営学部

学科

国際経営学科 (多摩キャンパス)

経営学、経済学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要な企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成します。

国際経営学は、国際ビジネスの舞台で活躍できる実践知を備えたグローバルリーダーに求められる素養を身に付けるための学問です。学問領域としては、戦略経営や、マーケティング、財務、人的資源、制度などの企業経営に関すること、国際経済や産業経済、公共経済などのグローバル経済に関することとなります。加えて、国際経営学部では、多文化理解のための国際地域研究や、ビッグデータの時代にあつて的確に情報を収集し分析する情報統計、外国語運用能力を高めるためのビジネスコミュニケーション・交渉論といった幅広い学問を学ぶことが可能です。

全科目の7割以上を外国語、主に英語で授業を行うことで、多くの留学生を受け入れ、内なる国際化を推進していきます。また、国際感覚を身に付けるための海外短期留学（1年次から留学可能）や中長期の海外留学、海外インターンシップなどもあります。なお、カリキュラムの基礎部分に当たる科目では、より理解を深めるために、週2回（計200分）の授業を通して、徹底した基礎固めを行います。さらに、英語による授業のみで学位が取得できることも大きな特徴となります。

※留学生は外国語科目としての「日本語」を履修する必要があります。

● 国際情報学部

学科

国際情報学科 (市ヶ谷田町キャンパス)

国際社会が抱える情報の諸課題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築し、国際社会に受容される情報サービス・政策を実現できる人材を養成します。

「情報の仕組み」、「情報の法学」、「グローバル教養」が国際情報学部での学びです。

情報技術の発展著しい現代においては、情報通信技術の発展に法律が追いついていないことがあります。そのような社会の課題解決には、「情報の仕組み」（情報技術）もさることながら、「情報の法学」（情報分野における法律やルール）に関する知識を併せ持つ必要があります。国際情報学部は「『情報の仕組み』と『情報の法学』の融合」を教育理念とし、これからの情報社会を担うために必要な専門教育を展開します。また、専門教育で培った知識やスキルを持って国際社会で活躍するには、相応の英語力に加え、哲学や倫理学、宗教学といった学問に基づく、異文化を理解し、他者と協働するための教養やメディアを適切に扱うための知識（「グローバル教養」）を身に付けなければなりません。これらのことから、国際情報学部は、「情報の仕組み」、「情報の法学」、「グローバル教養」を学びの柱に据えているのです。

情報分野の最前線で活躍する実務家教員を多数招聘することで、変化の激しい情報社会の最新の動向を学生に提供する教育課程を実現しています。新宿区市ヶ谷田町という都心の立地を生かして、講師の招聘にとどまらない産官学の連携を図っていきます。

国際情報学部は "iTIL" で表すことができます。この "iTIL" には、国際情報学部の理念である「『情報の仕組み』と『情報の法学』の融合」を換言した "Information Technology & Law" と市ヶ谷田町キャンパスが情報社会の拠点となる "Ichigaya Tamachi Link" の2つの意味が込められているのです。

学部ガイドブック (デジタルパンフレット)

2027年度学部ガイドブック
(デジタルパンフレット)は
こちらから▶



中央大学 GUIDEBOOK 2027



法学部 2027 GuideBook



経済学部 2027 GuideBook



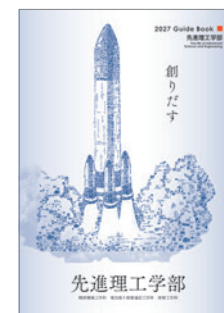
商学部 2027 GuideBook



基幹理工学部 2027 GuideBook



社会理工学部 2027 GuideBook



先進理工学部 2027 GuideBook



文学部 2027 GuideBook



総合政策学部 2027 GuideBook



国際経営学部 2027 GuideBook



国際情報学部 2027 GuideBook